

### 「EMCの窓辺」から「EMCのバトンタッチ」へ

2018－19年度西日本区EMC事業主任 小野 勅紘(六甲部西宮)

今期、再び西日本区EMC事業主任の大役を拝命いたしました、六甲部西宮クラブの小野勅紘(とくに)です。前回、西日本区の各部からEMC事業に大変ご経験の深い、また貴重なノウハウをお持ちの方にご登壇いただき、EMCに関する原稿を頂戴し、EMC事業通信の中の「EMCの窓辺」というコーナーに掲載させていただきました。期末の最後にはそれらの原稿を、1冊にまとめて、復刻版としても西日本区以外に、2017年2月に東山荘で開催されました、東西交流会で東日本区の皆様にも配布いたしまして、大きな反響をいただきました。

今回もそれを継続させて、発展形の「EMCのバトンタッチ」と題して、多くのご経験やノウハウをお持ちの方にご披露していただきたく思っております。各部、各クラブが多岐に亘りますと本当に色々な活動や経験があるでしょう。会員減少に苦しんでいても、「へー、そうなんだ」「そんなやり方もあったのか」「私も同じ経験をしたことがある」「悩んでいたのは自分たちだけではなかった」というご意見が出てくると思います。そういった、新しい発見の場にも大いに使っていただければ、このコーナーの趣旨は達成されると思います。“悩みは共有することで分散されるし、喜びは共有すれば2倍にも3倍にもなります”我々はひとり一人違うけれど、決して一人ぼっちではないのだという自信にもなれば幸いです。

とりあえず、7月、8月はEMC事業に多くのご経験のある方にご登壇いただき、9月頃から各部よりの原稿をご披露していただきたいと思っております。個々に悩むことなく、一緒に悩んで一緒に喜びを分かち合おうではありませんか。皆さまの投稿に期待いたします。今期最初の登壇者はかつて西日本区理事を務められた、阪和部和歌山クラブの神谷 尚孝ワイズからバトンタッチを始めさせていただきます。



## EMC 随想

阪和部和歌山クラブ  
神谷 尚孝ワイズ

私は1964年勤務先の上司から勧められ、28歳の時に和歌山クラブに入会し、1984年に「和歌山紀の川クラブ」、1995年に「大阪サザンスカイクラブ」の設立実行委員長、1993年から「日本区6000プロジェクト」委員を2カ年間務めました。

ワイズの会員となって、多くの素晴らしい方々先輩に恵まれ、私の人生に於ける大きな糧となっています。ワイズを紹介して入会に至った方は20名を超えていると思います。

しかし残念な事に、その方の職場環境／家庭環境の変化から、ワイズ活動から離れて行った方が沢山居ます。それぞれの事由でやむなき事と諦めざるを得ませんでした。

近年の職場環境の変化は、勤務とクラブ活動の両立を難しくしている傾向にあります。家庭生活に於いても夫がメンになれば、ほぼ自動的に妻がメネットとして活動を始めた時代は過ぎ去りました。しかしワイズメンズクラブの特色である、夫婦が共にYMCAに、社会に奉仕出来る特色有る組織は、守り育てて欲しいと思います。

声掛けする対象は、職場で知り得た人、自宅の工事で作業に訪れた人達です。最近はサークル活動等で随分大勢の方々との交友が生まれていますが、それらの方々の殆どは私に近いご高齢で、ワイズへのお誘いは出来ていません。

諦める事なく周囲に目を配り、暖かく国際性のあるクラブを私達自身も楽しみ、機会あるごとにPRして行きましょう。

和歌山クラブは『一緒にしませんか YMCA ボランティア活動』と題した、A4 サイズ三つ折りリーフレットを自家プリントで作成し、私は何時も鞆に入れてあります。

(2007－08年度第11代西日本区理事)

次号8月号はびわこ部近江八幡クラブの堀江 宏さんにバトンタッチいたします。